

重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

水産資源調査・評価推進委託事業

(予算区分 受託 研究期間 1996 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 鈴木 聡志

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁獲可能量 (TAC) の決定など資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられ、重要魚種の資源評価のため、国の研究所を中心に、全国で各種データの収集・解析が実施されています。

静岡県では調査船を用いてイワシ類、サバ類の卵稚仔等の出現状況や分布を調べ、これら重要魚種の資源動向との関連性を検討しています。

【これまでに行われた成果】

(2020 年度の状況)

- ・静岡県周辺の海域で毎月約 26 測点の調査を実施しました(図 1)。
- ・2020 年 1～6 月の沿岸域における、マイワシの 1 測点当たりの卵稚仔平均採集数は、前年及び過去 10 年平均と比較して卵、前期仔魚及び後期仔魚ともに下回りました(図 2)。
- ・同期間のカタクチイワシの卵稚仔平均採集数は、前年と比較すると、卵及び前期仔魚は下回り、後期仔魚は上回りました。また、過去 10 年平均と比較していずれも下回りました(図 2)。
- ・同期間のサバ類の卵稚仔平均採集数は、前年と比較して卵は前年を上回り、前期仔魚及び後期仔魚は下回りました。また、過去 10 年平均と比較して卵は前年並となり、前期仔魚及び後期仔魚ともに下回りました(図 2)。

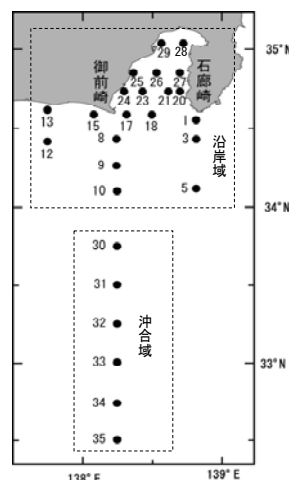


図 1 調査測点

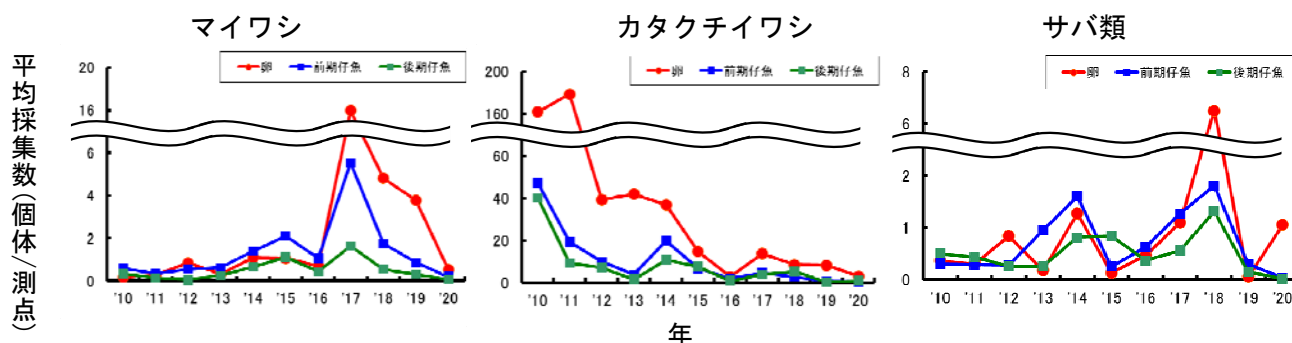


図 2 マイワシ、カタクチイワシ、サバ類の 1 測点当たり卵稚仔平均採集数 (1～6 月)

【期待される効果】

- ・全国の卵稚仔の出現情報が集積されることで、我が国周辺における重要魚種の資源評価や資源動向の情報として活用されます。

【今後の計画】

- ・静岡県沿岸域における重要魚種の卵稚仔の出現状況と漁況との関係を検討します。

(作成 2021 年 4 月)